

自宅学習で合格2021

- ・最終合格者の8割強は、S社N社への通学者であるが、学科なら通学しない自宅学習だけで合格できる。
- ・学科の合格率は約2割と厳しいが、過去問20年をしっかりと学習すれば確実に合格できる。
- ・学科試験なら自宅学習だけでも合格可能、更に2021年は次の2点を追加し学習高効率を向上させる。

- ① 「過去問20年のポイント一覧表」の**音声読上** …2021年1月から公開(年内アップ完了)
- ② 「項目別の1級建築士YouTube講座」の**パワーポイント音声解説** …2021年4月から公開予定

※②は資料作成および会費増加(音声変換に外注費必要)に併せて適宜公開する。YouTubeアップ後にHP内一覧表で公開。

1. 学科試験は自宅学習だけでも確実に合格できる

1級建築士の学科試験は、**過去問20年**を学習すれば確実に100点を超えて合格できる。過去問20年を分析すると、全ての学科で繰り返し類似問題が多く出題されている。最も効率よく点数を上げるには、王道と言われる過去問の学習は必須事項である。毎年、新規問題も出題されているが、この対策は、4選択肢であることから**消去法**が有効である。

一般書籍の過去問は、「**項目別解説書**」や「**過去問7年間の解答書**」が販売されている。しかし、「項目別解説書」では掲載内容が少なく、「過去問7年間の解答書」では類似傾向等まで把握することができず、この学習では合格できない。その結果、資格学校への通学を選択する方もいるが、過去問20年の学習をすれば自宅学習でも十分合格することができる。ただし、過去問20年の学習には、**膨大な時間**を要する。そこでHPの過去問20年は、項目別に分類し、その問題をA3伴1枚に10問題を並べる一覧表を作成した(20年分ならA3伴2枚)。机の上にA3伴2枚を並べて置くと、その項目の過去問20年分の全てを見ながら学習できることから**時間短縮**が可能となる。

HPの「ポイント一覧表」は、過去問20年の項目別問題(選択肢)を全て正解文に変更して簡条書きにした。**2021年**は、このポイント一覧表の**音声読上**をアップ中である。ポイント音声読上は、毎日の通勤電車内に携帯で聴くだけでも限りなく90点に近づける。

2. 毎年HPだけの自宅学習で数名が製図試験に合格している

研究会の多くの会員は、S社・N社等の資格学校と併用活用している方である。しかし、一部の会員は、研究会のHPだけを利用して製図試験に挑んでいる。2020年も2019年も数名の方が合格することができた。研究会HPは、①予測課題3案で8割以上の中、②図面の添削対応、③個別質疑対応に特徴があり、通学しなくても製図試験に合格できる内容を心掛けている。将来、多くの方が通学しないでHPだけで合格できるよう鋭意努力していきたい。

3. 資格学校(S社・N社)の利点と課題について

資格学校(S社・N社)の**利点**は、その専門学校であることから資料が充実(予測課題含む)していること、対面講義であり疑問点をその場で確認できること、専門スタッフが充実していること、全国に亘り教室があること、休日は1日拘束されるので強制的な終日学習ができること等である。

他方、資格学校の**課題**は、予測課題が多すぎる(学習が追い付かない、結局何がでると疑問を持つ等)、通学するための時間を要すること、全国共通での学習なので通学者内で差が付きにくいこと、多人数の共通学習は自分のペースと異なる場合があること(落ちこぼれると着いていけない等)、受講費があまりに高額であること等である。

最終合格者(製図試験合格者)のS社・N社の占める割合は、8割を超えている。他の資格学校を含めると9割を超え、事実上の独学合格者は、数%という狭き門である。資格学校の歴史を振り返ると、昔はN社の一社独占市場であった(現在は約3割)。名古屋の地方資格学校であったS社は、現在、市場の約7割を占める最大手となった。合格者の占める割合は、S社もN社も同程度と推定している。S社の公表している合格者の数値は、全て**占有率**であるので、誤解を生じないようにした方がよい(受講者も多いので合格占有率も高い、合格率ではない)。結局、S社もN社も通学する方の**約半分**が合格する状況にあるので、事実上、1級建築士試験は、資格学校内の1/2の競争と言える。

なお、**S社へ通学**するのであれば、以下の2点を理解したうえで、ご判断された方がよいと思います。

- ① 学科と製図は、通学後に様々な補修等で結果10~20万円の**追加費用**がかかる
- ② 製図は、9時ごろから22時ごろまでの**長時間講習**となる

一時、S社の受講生が多くなるにつれてN社は費用を下げた経緯がある。その結果、N社の受講生が盛り返したが、その後、S社が入学時の費用を下げて、入学後に様々な追加講習として累計10~20万円の費用を取る形式をするようになった。昨年、S社受講した当会員の方は、「**お金が無いので追加講習を受けられない**」と伝えたが、「**合格する気がないのか**」等の強い勧誘により、結果追加講習を受けた。他方、製図は、N社との差別化の意味も含め、S社は深夜22時ごろまでの講習を実施している。これも、人間の集中力の限界をはるかに超えた学習時間であるので、少々疑問に思える(N社のように18時に終了しても合格率はほぼ同じ)。これら2点は入学時には把握できないので、それを知ったうえで、または直接S社に確認したうえで、納得して入学された方がよい。